

探訪 新ライフスタイル

米アマゾン・ドット・コムは世界有数の企業に成長した。その本拠地は米国・ワシントン州シアトルにある。シアトルにはマイクロソフト、ボーイング、スターバックスコーヒー、ノードストローム、エディーバウワー、郊外にはコストコ本社など世界的な大企業が数多く存在する。なぜ、シ

ライフスタイル

シアトルが示す「ポストコロナ」社会



独特の雰囲気醸す米シアトルのアマゾン・ドット・コム本社

コミュニティー重視が主流に

シアトルに名だたる企業が生まれ集積地として成長し、若くして高収入のクリエーターらしき生きること、常に新しいものを生み出す企業が生み出しているのだろうか。昨今はIT(情報技術)を利用してスタートアップブクラスが流入する。シアトルに暮らす人には、自分

しいものにチャレンジする、世界から新進気鋭のバグが集まること、常にある「シアトル」は独自の「インベーター」スタイルの生き方への誇りがあ

シアトルは伸び伸びと穏やかな生活を好み、かつ世間に流されない自分のこだわりを持つ。スターバックスやタリーズ、シアトルズベストコーヒーをはじめ、多くのコーヒーチェーンが世界的企業に成長した背景には、シアトルの「マリナーズのホーム球場」存在が大きい。シアトルは「ITモバイル・パーク(旧セーフコ・フィールド)で活

躍するボランティアは、座席を案内したり、試合中人が立つと見えないので注意したり、ゴミを片付けたりと自発的な活動をする。球団スタッフではない一般人の自発性を見ると、人を思いやる文化が根っこにあることで良質な地域コミュニティーがつけられ、サステナブルとは「やさしさ」であることに気づかされる。日常の良質な暮らしがあることで、優秀な人材も集まり、時代をリードするビジネスも育つ好循環ができていく。

2000年の同時多発テロ以降、ニューヨークは周りの人に親切になり「シアトル化」とささやかれた。リバイバル(自由の鐘)は米国の独立、自由の象徴であり、社会的公正や多様性を重視する姿勢に通じる。他人に思いやりと誇りを持ってほしいと願う国民性があるのだろうか。右肩上がりの経済成長の限界を感じるさなか、予想だにしない新型コロナウイルスは人々の考え方や価値観を大きく変えていく。都市全体のシステムやワークスタイル、ライフスタイルなど社会構造の変革も伴う。パラダイムシフトになるはずだ。シアトルのクリエーターなインベーターと、街や人とのコミュニティーを大切にすることが、ポストコロナのサステナブルなライフスタイルを示唆している。

(商い創造研究所代表 松本大地)